

# 指導と評価の年間計画(国語)〈例〉

岐阜県立〇〇〇〇高等学校

科目	現代の国語	学年・年次	〇年	指導クラス	〇・△組	指導者名	
単位数	2	使用教科書		副教材・問題集等			

## 1. 科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

## 2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

## 3. 指導及び評価計画

月	指導の領域 指導時間			単元名	指導項目 (単元目標)	主な言語活動	評価の 場面・方法	評価の観点			教材名
	話聞	書	読					a	b	c	
4			3	評論 二項対立の展開による日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質についての理解を深める。	【思・判・表】 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。	評論文を読んで、その内容や形式について、引用や要約をすることで要点や要旨を整理し、二項対立の構造を図式化してまとめる。	行動観察 ワークシート点検 単元テスト	○ ○ ○	○ ○ ○	○	水の東西
	4				【思・判・表】 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫する。	社会問題について一つ取り上げ、新聞記事等を読み、日本と海外の対応の違いについて、理由や根拠をもとに自分の考えが伝わるように工夫しながら発表する。	行動観察 課題点検 レポート点検 発表	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	
5		4		***	***	***	***	○	○	○	***
			3	***	***	***	***		○		***
6			2	***	***	***	***	○	○		***
			1	前期中間考査				○	○		
		5		***	***	***	***		○	○	***
7											
8											
9											
10											
指導 時数	話聞 21	書 31	読 18	【現代の国語】2単位で実施する場合 話すこと・聞くこと 20～30単位時間程度を配当 書くこと 30～40単位時間程度を配当 読むこと 10～20単位時間程度を配当 (※実施単位数に応じて領域ごとの指導時数を増やすこと)							